

震災時等における仮貯蔵・仮取扱い実施計画書(例)

1 目的

震災等により被災地においてガソリン等の燃料が不足した場合に災害復興支援車両等への燃料補給を行うことを目的とし、危険物施設以外の場所での一時的な貯蔵やドラム缶から手動ポンプ等を用いて金属製携行缶への詰め替えを行い、仮設の燃料供給拠点として利用するために必要な事項を予め計画するものである。

2 仮貯蔵・仮取扱いをする場所

鹿児島市〇〇町〇〇番〇〇号 〇〇公園駐車場

3 仮貯蔵・仮取扱いに使用する部分の面積

約360㎡以下(15m×24m)

4 詳細レイアウト

別紙のとおり

5 仮貯蔵・仮取扱いをする類、品名、数量

第4類 第1石油類 ガソリン 3000L

6 指定数量の倍数

15倍

7 貯蔵及び取扱い方法

- (1) 200リットルの金属製容器(ドラム缶)にて貯蔵する。
- (2) 保有空地は6m確保する。
- (3) 貯蔵場所と詰め替え場所に6mの離隔をとる。
- (4) 状況によっては、高温になることを避けるため、通気性を確保した日除けとして、テントを貯蔵場所に設置する。
- (5) 標識・掲示板を設置し、関係者に次の事項について注意喚起を行う。
「危険物仮貯蔵・仮取扱所」、「品名・数量・倍数」、「火気厳禁」、
「危険物仮貯蔵・仮取扱承認標識」
- (6) 第5種消火設備 10型粉末消火器を設置する。

8 安全対策

- (1) ドラム本体、給油に使用するドラムポンプのアースを確保する。
- (2) 危険物の取扱いは、原則として危険物取扱者免状保有者が行う。
- (3) 危険物を取り扱う者は、静電気除去に努める。

9 管理状況

- (1) 保有空地の周囲をカラーコーン・トラバーにて区画し、空地を確保する。
- (2) 敷地の出入り管理を徹底し、第三者の進入を防止する。
- (3) 作業前と作業後に点検を行い、その結果を記録する。

10 その他必要事項

金属製携行缶による給油は、この場所以外では行わない。

